四条町（しじょうちょう）

藤原京四条大路が通る

近年の発掘調査で古都「藤原京」の京域が、従来の定説より東西に相当広いことが判明し、都の中央から西に伸びる「四条大路」が当時、現四条町のほぼ真ん中を東西に走っていたことも分かりました。地名の「四条」は、古代すでに生まれていたと思われます。

この地名が文字として初登場するのは、室町前期・応永一三（一四〇六）年の南都・興福寺関係文書です。中世をほぼ興福寺関係の領地として過ごした当地は、近世の江戸時代に入ると「四条村」と呼ばれ高取藩と壷阪寺・岡寺の領有となります。

明治初年から同一七年にかけ近隣を合併した当時の村人口は四〇六人。農家が七戸に商家が八四戸という構成（町村誌集）でした。明治二二年に白橿村大字となり昭和三年に畝傍町大字となったあと、同三二年に「橿原市四条町」となりました。

昭和六三年の発掘調査で前方後方型の「四条古墳」が町の畝傍山北東ふもとで見つかりました。古墳を囲む堀の中から前例のない木製品多数が出土し、全国の古墳研究に重要な資料を提供しました。昭和三四年に県立医大が同四二年に橿原警察署が当町へ移転し、県農業試験場（現県農業技術センター）も大正一二年に移転しています。